



背景・意義

◆ ルラ大統領は環境・気候変動対策を政権の最重要課題の一つと位置づけ(2025年のCOP30のブラジル・ベレンでの開催や2023年8月のアマゾン流域8か国首脳会合の開催等)。2050年までのネットゼロ及び2030年までアマゾン熱帯雨林の違法伐採ゼロを目標に掲げている。

◆ 日本は、先進的レーダー衛星やAI技術を活用し、アマゾンの違法伐採対策等に協力。2022年7月、両国間で気候変動分野に関する宣言書に署名。2023年5月の日ブラジル首脳会談(於: 広島)において、両首脳は、環境・気候変動対策において緊密に連携していくことで一致。

◆ 環境・気候変動分野における両国の協力のポテンシャルは高い。日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI) は、「環境・気候変動対策」及び「持続可能な開発」を軸として、日本の技術活用による協力を通じて「戦略的グローバル・パートナーシップ」の一層の強化を図るもの。

GPIにおける取組

(1) 環境・気候変動協力

- アマゾン基金への拠出(4.11億円(300万ドル))
- 防災における協力や三角協力の推進
- 海外投融資を活用した事業の推進 等



アマゾンの違法伐採モニタリング



アグロフォレストリーの様子

(2) 持続可能な開発

- 地球温暖化対策・食料安全保障を目指した劣化農地の畑地転換
- アグロフォレストリー(持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全を確保する森林農法)
- 精密・デジタル農業(ICT等の技術を活用した農業生産の効率化・持続可能な農業の促進)
- 水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料(e-fuel)等エネルギー分野の協力

日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)

環境・気候変動対策

◆ アマゾン基金への拠出

アマゾンの森林保護を目的としてブラジル政府が設立した同基金への拠出(4.11億円(300万ドル))を通じて、森林の管理・監視、生態学的・経済的ゾーニング、土地利用計画、土地所有権の正規化、伐採地の回復等の分野のプロジェクトを支援。

◆ 気候変動対策におけるパートナーシップ

温室効果ガス排出削減への貢献の重要性を認識しつつ、気候変動対策におけるパートナーシップの強化の可能性を模索。

◆ 防災における協力

強靱な街づくりのための土砂災害構造物対策能力向上への協力。

◆ 三角協力

アマゾン流域地域におけるパイロットプロジェクトとして、地球観測データキューブ等のリモートセンシング技術を活用した大洋州諸国向けの研修を実施。

◆ 海外投融資を活用した事業の推進

「気候変動対策投資推進事業」を始めとする、TSUBASAプログラム等の民間ファンドへの出資を通じた気候変動対策分野の新興企業への出資。

持続可能な開発

◆ 劣化農地改良

土壌改良等による豊かで包括的な循環経済型農村社会の実現に向けて協力。日本は「セラード農業開発協力(PRODECER)」(1979年～2001年)を通じてブラジルの食料増産、地域開発に貢献した実績あり。

◆ アグロフォレストリー(SAFTA)

1970年代にブラジル北部の日系農家が開発した、胡椒や熱帯果樹、樹木栽培を組み合わせた森林農法。日本は1974年から2021年、専門家派遣、熱帯果樹のジュース加工工場整備等の支援を実施。本事業を通じて、持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全の確保に向けて協力。

◆ 精密・デジタル農業共創プロジェクト

日・ブラジル間の官民連携を通じた各分野の実証事業や農業データプラットフォームの整備を支援。

◆ エネルギー分野における協力

水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料(e-fuel)等エネルギー分野の協力。